

南ア月報
(2017年9月)

在南アフリカ日本国大使館

主な出来事

【内政】

- 与党 ANC 総裁選プロセスが本格的にスタート
- National Development Plan (NDP) 採択5周年

【外交】

- ズマ大統領の国連総会出席
- SADC ダブル・トロイカ首脳会合

【経済】

- インフレ率
- 製造業・鉱業生産高
- 自動車販売台数
- 景況感
- 南ア経済、リセッションから脱却
- 改訂鉱業憲章の執行猶予
- 金融政策（政策金利の据置き）
- 世界経済フォーラム、国際競争指数の下落
- 2 大企業の本邦子会社の BLSA 資格停止
- 雇用統計の発表

【広報・文化】

- プレトリア大学における日本語講座の開講
- 日本映画上映

【警備】

- 外国人旅行者の犯罪被害

1 内政

●与党 ANC 総裁選プロセスが本格的にスタート

本年12月に開催予定の第54回 ANC 全国大会に向けて、ANC 政策協議会（7月開催）での議論を踏まえた向こう5年間の ANC としての政策の方向性や、総裁選に向けたノミネーションの議論が各州支部レベルで本格的にスタートした。

次期総裁候補の一人であるドラミニ＝ズマ前アフリカ連合委員会（AUC）委員長が国会議員として国政に復帰。総裁選に向けた足固めの一環とみられている。

●National Development Plan (NDP) 採択5周年

9月12日、NDPは採択から5周年を迎えた。NDPは、poverty（飢饉）、unemployment（雇用）、inequality（社会格差）への取り組みを推進すべく策定された、持続的な社会経済発展を目標とした長期計画であり、13日の閣議において、国民に対して、今一度 NDP の理念

の下決起するよう呼びかけた。

2 外交

●ズマ大統領の国連総会出席

ズマ南ア大統領は国連総会に出席し、15日に一般討論演説を行った。ズマ大統領は、現在の世界経済の構造は、「北」と「南」の差をより一層深いものにしており、持続可能な開発のための2030アジェンダの目標を達成したいのであれば、世界経済の構造がもたらす挑戦と障害に取り込もうとする世界のリーダー達のコミットメントが必要であると述べた。

また、同大統領は、リビアの平和を望み、シリアにおける暴力の即時停止を呼びかけた。同時に、リビア及びシリアの例においても、他国が軍事的な手段による解決策を押しつけようとする試みに強い警告を与えた。朝鮮半島情勢に関し、ズマ大統領は、引き続き平静を呼びかけた。

ズマ大統領は、国連改革を実現するために、事務総長が全ての加盟国と協力し、なんらかのはずみ (impetus) を与えてくれることを期待すると述べ、パリ協定に関しては、これを損なおうとするあらゆる試みに抵抗すべきであると述べた。また、ズマ大統領は、イスラエルによるパレスチナへの不法入植及び西サハラの状態を批判した。

●SADC ダブル・トロイカ首脳会合

15日、南ア国際関係・協力省は、SADC ダブル・トロイカ首脳会合を開催した（ズマ南ア大統領、ラマポーザ南ア副大統領、タバネ・レソト首相等が出席）。首脳会合は、レソトにおけるモツォモツォ同国軍司令官の殺害を強く糾弾し、不安定な治安状況がレソトの政治的安定に悪影響を与えていることに留意した。首脳会合は、レソト政府を支援するために、軍、治安、情報及び民生分野の専門家を含む派遣隊の展開を承認した。

3 経済

<経済指標>

●インフレ率

南ア統計局によると、8月の消費者物価総合指数 (CPI) は4.8%、前月比0.2%増。物価指数は、前月比0.1%増。

●製造業・鉱業生産高

南ア統計局によると、7月の製造業生産高は、前年同月比1.4%減。主な要因は、石油、化学製品、ゴム及びプラスチック製品の生産減と、鉄鋼、非鉄金属製品、鉄製品予備電気機器の分野での生産増。季節調整後生産高は、前月比1.5%増。

鉱業生産高は、対前年同月比0.9%増。主な要因はマンガン鉱石、クロム鉱石、ダイヤモンド、金及び非金属鉱物の生産増と、鉄鉱石とPGMsの生産減。季節調整後生産高は、過去3ヶ月から0.1%増。主な要因は、ダイヤモンドの生産増とPGMsの生産減。

●自動車販売台数

南ア自動車工業界 (MAAMSA) によると、9月の総販売台数は50,675台と、前年同月比0.7%を記録し、4ヶ月連続で増加。そのうち、80.2%をディーラー販売、13.9%をレンタカー販売が占めている。新車販売台数は33,669台を記録し、前年同月比5.9%増となり、そのうち18.9%をレンタカー業界が占めている。国内販売では、軽自動車、バイク及びミニバスが前年同月比11.7%を記録。他方で、中型及び大型トラックで販売数が伸び悩み、前年同月比10.4%減。輸出販売台数は、前年同月比11.0%増の32,764台を記録。輸出販売台数の大幅増

は、今年の自動車総販売台数の増加につながると推測。

●景況感

Absa Bank が発表した 9 月の購買担当者指数 (PMI) は、44.9 ポイント (前月比 0.9 ポイント増) を記録。本指数は 2 ヶ月連続で上昇したものの、依然として経済成長収縮を意味する 50 ポイントを下回っている。

<出来事>

●南ア経済、リセッションから脱却

5 日、南ア統計局は 2017 年第 2 四半期 (4 月～6 月) GDP 統計を発表し、実質 GDP 成長率は事前の予想をやや上回り、前期比プラス 2.5% を記録。南ア経済は 2016 年第 4 四半期にマイナス 0.3%、2017 年第 1 四半期にマイナス 0.7% を記録し、公式に景気後退 (リセッション) 入りしたが、今般、リセッションから脱却した。生産面からみた内訳では、農林水産業生産 (33.6% 増)、金融・不動産・商業サービス (2.5% 増) 及び鉱業 (3.9% 増) で成長率を押し上げた。支出面の内訳では、家計消費 (4.7% 増) が成長率を押し上げる一方、固定資本形成支出 (2.6% 減少) は成長率を 0.5 ポイント低下させた。同日、南ア財務省は声明を発表し、今期経済成長率のプラス回復を歓迎する一方、長期的な回復トレンドか否かにつき引き続き見極めが必要との立場を表明。

●改訂鉱業憲章の執行猶予

14 日、鉱物資源省は、ハウテン州高裁の決定に従い、鉱業協会が同高裁に緊急差し止め申請を実施した同省が 6 月に公表した 2017 年改訂鉱業憲章については、同高裁の判決が下される 12 月 13 日及び 14 日まで執行しないこととした。

●金融政策 (政策金利の据置き)

21 日、南ア準備銀行 (中銀) は、金融政策委員会 (隔月) を開催し、前回 7 月の政策金利 (6.75%) 据置きを決定した旨を発表。

前回の政策金利引き下げから、更に 0.25 ポイント下げるとの大幅の予測に反し、市場からは失望の声が上がった。また、準備銀行は、2017 年の GDP 成長見通しを 0.5% から 0.6% に引き上げた (2018 年は 1.2%、2019 年は 1.5% と予測変動なし)。

●世界経済フォーラム、国際競争指数の下落

27 日、世界経済フォーラム (WEF) グローバル競争指標順位 (137 カ国) が発表され、南アは前年第 47 位から第 61 位に下落 (サブサハラアフリカでは、モーリシャス (第 45 位) とルワンダ (第 58 位) に次ぐ 3 位)。今回の下落要因は、(1) 内政不安が景況感に悪影響を及ぼしたこと、(2) 最近の政治経済界めぐるスキャンダルが、サブ項目の「監査の強靭さ」 (前年第 1 位から第 30 位に大幅下落) をはじめとする、「制度的環境」という項目の評価に大きく水を差したこと等が挙げられる。その結果、「制度的環境」 (前年 36 位から第 76 位)、「金融市場」 (前年第 33 位から第 44 位) 及び「市場の効率性」 (前年第 26 位から第 54 位) の各項目で大きく下落した。他方、「市場規模」 (第 30 位)、「ビジネスの洗練度」 (第 37 位) 及び「イノベーション」 (第 39 位) などの項目ではあまり下落せず、世界的に高い水準を維持している。

●2 大国资企業の BLSA 資格停止

28日、南ア経済連盟（BLSA：Business Leadership South Africa）は、長期間にわたる汚職のため、南ア国営電力公社（Eskom）及び南ア国営運輸公社（Transnet）の会員資格を停止した。また、同連盟は、政府に対して、1年前のマドンセラ（Ms. Thuli Madonsela）護民官（当時）による国家掌握報告書（State Capture report）の勧告を踏まえ、早急な法的調査を実施するよう請願している。

●雇用統計の発表

28日、南ア統計局は四半期毎の雇用統計で、本年3月から6月の間に3万4千人分の雇用が失われたことを発表。主な要因は製造業、建設業、社会福祉業、運送業及び商業での雇用減。他方で、鉱業及び貿易産業では前年同月比1万3千人分（0.1%増）の雇用が創出された。

4 広報・文化

●プレトリア大学における日本語講座の開講

5日、プレトリア大学日本研究センター協力の下、同大学生涯学習部門において今期の日本語講座がスタートした。なお、同日本語講座は、2013年以降毎年実施されており、日本語学習の機会が少ない南アにおいて、貴重な機会の一つとなっている。

●日本映画上映

16日、プレトリア大学において、大使館と日本研究センター共催による日本映画上映が行われた。今回は、テレビの人気突撃レポーターの取材活動を通じ、1985年に実際に起こった事件等を描いた滝田洋二郎監督の「コミック雑誌なんかいない！」が上映された。

5 警備

●外国人旅行者の犯罪被害

外国人旅行者が強盗の被害に遭う事件が続けて二件発生した。一件目は、オランダからの団体旅行者がO.R.タンボ国際空港に到着後、チャーターした大型バスで宿泊先に向かう途中、複数の武装強盗に襲われたもので、強盗犯は偽の警察車両を使用していた上、そのうち1人は南ア国家警察の制服を着用していたとされる。二件目は、リンポポ州のホテルで発生した侵入強盗事件で、深夜ホテルに侵入した強盗犯がペルーからの旅行者の部屋に押し入り、カメラや旅券等を強奪したものであった。

29日、南ア警察大臣は、暴力的犯罪の多発を受けて、戦術的対策チーム（Tactical Response Teams）及び追跡チーム（Tracking Teams）の再投入を発表し、殺人、強姦、強盗等の重大犯罪及び逃亡被疑者の検挙に焦点を当て、強力な実力行使も辞さない姿勢で活動するとした。

（了）